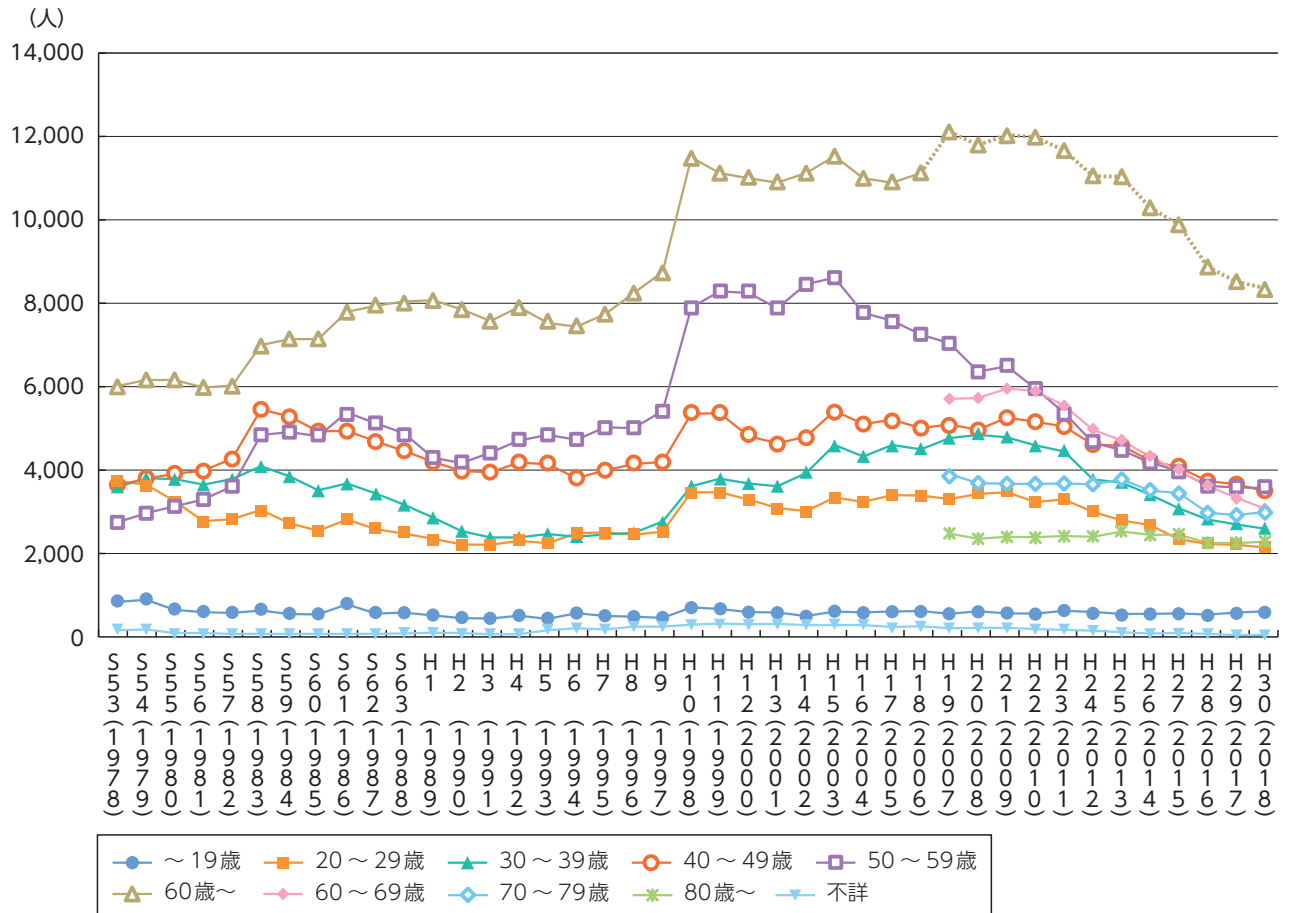


3 年齢階級別の自殺者数の推移

○年齢階級別の自殺者数の推移をみると、全体的に、60歳以上（注）が最も多く、50歳代、40歳代が多くなっている。

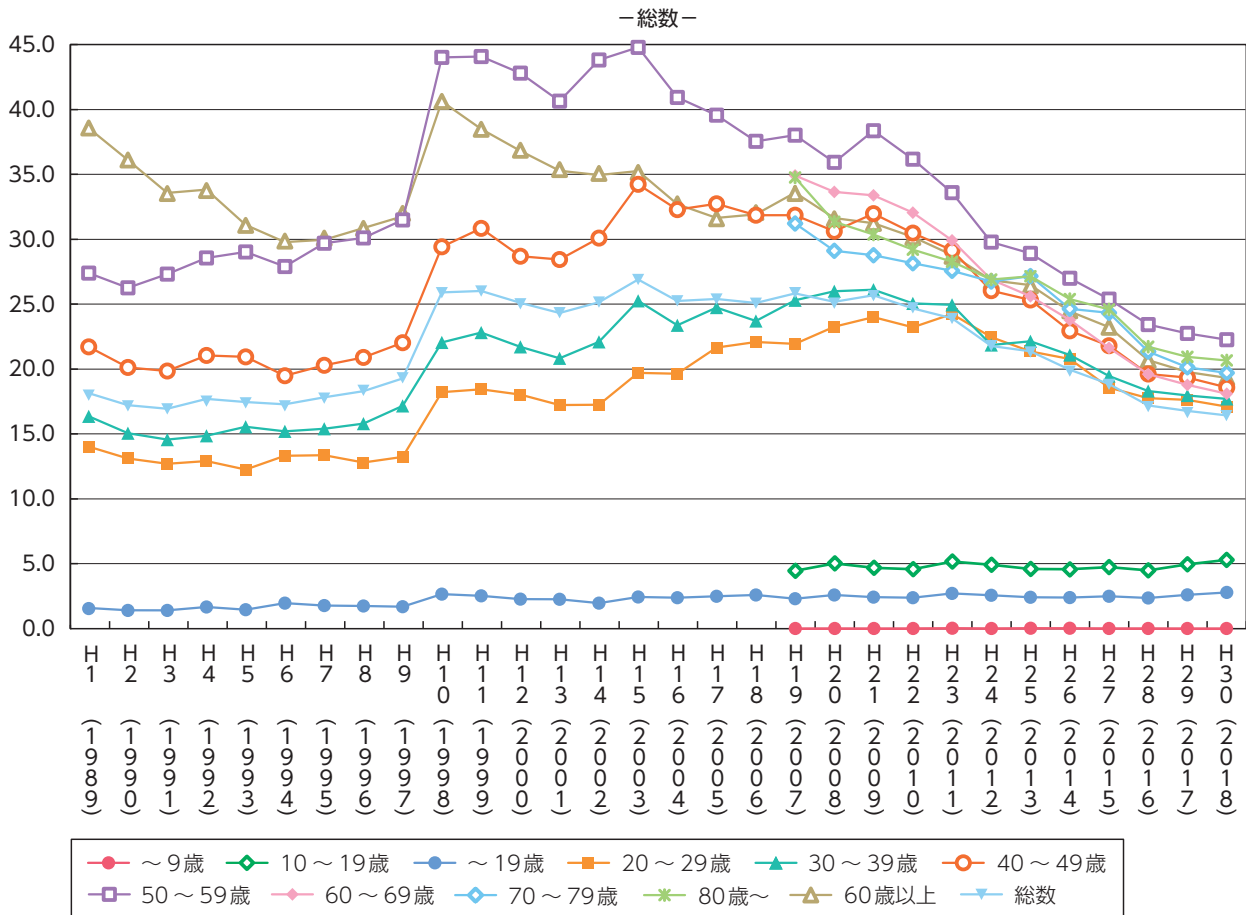
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

○年齢階層別の自殺死亡率の推移をみると、近年は全体的に低下傾向にある。20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで、20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さくなっている。

第1-6図 年齢階層別の自殺死亡率の推移



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

○我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にあり、10～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっている。こうした状況は国際的にみても深刻であり、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国では日本のみで、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

第1-7表 平成29年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	100	1.9	22.9	悪性新生物	99	1.8	22.7	不慮の事故	51	0.9	11.7
15～19歳	自殺	460	7.8	39.6	不慮の事故	232	3.9	20.0	悪性新生物	125	2.1	10.8
20～24歳	自殺	1,054	17.8	52.1	不慮の事故	335	5.7	16.6	悪性新生物	174	2.9	8.6
25～29歳	自殺	1,049	17.5	46.1	不慮の事故	288	4.8	12.7	悪性新生物	269	4.5	11.8
30～34歳	自殺	1,280	18.6	39.3	悪性新生物	616	9.0	18.9	不慮の事故	262	3.8	8.1
35～39歳	自殺	1,366	17.8	28.8	悪性新生物	1,145	14.9	24.1	心疾患	429	5.6	9.0
40～44歳	悪性新生物	2,649	28.5	30.0	自殺	1,628	17.5	18.5	心疾患	991	10.7	11.2
45～49歳	悪性新生物	4,764	51.2	34.0	自殺	1,872	20.1	13.4	心疾患	1,769	19.0	12.6
50～54歳	悪性新生物	7,267	90.5	38.1	心疾患	2,393	29.8	12.6	自殺	1,830	22.8	9.6
55～59歳	悪性新生物	12,211	162.7	44.4	心疾患	3,377	45.0	12.3	脳血管疾患	2,022	26.9	7.3
60～64歳	悪性新生物	21,238	274.5	47.3	心疾患	5,424	70.1	12.1	脳血管疾患	3,147	40.7	7.0

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	59	2.1	21.4	悪性新生物	57	2.1	20.7	不慮の事故	35	1.3	12.7
15～19歳	自殺	337	11.1	41.6	不慮の事故	187	6.2	23.1	悪性新生物	70	2.3	8.6
20～24歳	自殺	773	25.4	52.7	不慮の事故	272	9.0	18.5	悪性新生物	113	3.7	7.7
25～29歳	自殺	754	24.6	48.7	不慮の事故	225	7.3	14.5	悪性新生物	135	4.4	8.7
30～34歳	自殺	944	27.0	43.8	悪性新生物	258	7.4	12.0	不慮の事故	204	5.8	9.5
35～39歳	自殺	1,033	26.4	33.6	悪性新生物	469	12.0	15.3	心疾患	333	8.5	10.8
40～44歳	自殺	1,202	25.5	21.8	悪性新生物	1,082	22.9	19.7	心疾患	768	16.3	14.0
45～49歳	悪性新生物	2,094	44.4	23.4	心疾患	1,421	30.1	15.9	自殺	1,378	29.2	15.4
50～54歳	悪性新生物	3,613	89.3	29.3	心疾患	1,932	47.7	15.7	自殺	1,317	32.5	10.7
55～59歳	悪性新生物	6,873	183.3	37.1	心疾患	2,746	73.2	14.8	脳血管疾患	1,448	38.6	7.8
60～64歳	悪性新生物	13,526	354.3	43.5	心疾患	4,296	112.5	13.8	脳血管疾患	2,217	58.1	7.1

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	42	1.6	26.1	自殺	41	1.6	25.5	不慮の事故	16	0.6	9.9
15～19歳	自殺	123	4.3	35.0	悪性新生物	55	1.9	15.7	不慮の事故	45	1.6	12.8
20～24歳	自殺	281	9.8	50.5	不慮の事故	63	2.2	11.3	悪性新生物	61	2.1	11.0
25～29歳	自殺	295	10.0	40.5	悪性新生物	134	4.6	18.4	不慮の事故	63	2.1	8.6
30～34歳	悪性新生物	358	10.6	32.5	自殺	336	9.9	30.5	不慮の事故	58	1.7	5.3
35～39歳	悪性新生物	676	17.9	40.4	自殺	333	8.8	19.9	心疾患	96	2.5	5.7
40～44歳	悪性新生物	1,567	34.3	47.3	自殺	426	9.3	12.9	脳血管疾患	254	5.6	7.7
45～49歳	悪性新生物	2,670	58.3	52.6	自殺	494	10.8	9.7	脳血管疾患	400	8.7	7.9
50～54歳	悪性新生物	3,654	91.8	54.4	脳血管疾患	546	13.7	8.1	自殺	513	12.9	7.6
55～59歳	悪性新生物	5,338	142.2	59.2	心疾患	631	16.8	7.0	脳血管疾患	574	15.3	6.4
60～64歳	悪性新生物	7,712	196.8	55.9	心疾患	1,128	28.8	8.2	脳血管疾患	930	23.7	6.7

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-8表 先進国の年齢階級別死亡数及び死亡率（15～34歳、死因の上位3位）

	日本 2015				フランス 2014				ドイツ 2015				カナダ 2013			
	死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率	
第1位	自殺	4,132	16.3		事故	1,985	12.9		事故	1,724	9.0		事故	1,868	19.6	
第2位	事故	1,633	6.4		自殺	1,224	7.9		自殺	1,426	7.5		自殺	1,012	10.6	
第3位	悪性新生物	1,300	5.1		R00-R99※	966	6.3		悪性新生物	1,033	5.4		悪性新生物	513	5.4	

	アメリカ 2015				イギリス 2015				イタリア 2015				韓国（参考） 2015			
	死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率		死因	死亡数	死亡率	
第1位	事故	34,005	38.7		事故	2,596	15.3		事故	1,342	10.5		自殺	2,237	16.3	
第2位	自殺	12,438	14.1		自殺	1,255	7.4		悪性新生物	794	6.2		事故	1,152	8.4	
第3位	殺人	9,593	10.9		悪性新生物	1,060	6.3		自殺	530	4.1		悪性新生物	835	6.1	

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10回修正版）の第18章「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に該当するもの

注）「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡数をいう。

資料：世界保健機関資料（2018年9月）より厚生労働省自殺対策推進室作成